

のりあつりて作又善光寺へ参り
たつよう一承の程よきまじり一
只今修徳園へと急ぎい 都をゆく
りく波や志賀乃うく少の漕ま行末
ちあつちれ山こきて袖に露ちる玉
江のち一越て未あれ越路乃様おし
やれうするるれ 木まゝなる

うの塩一のぐくあつこのの松乃夕
燻きえぬうの牙の罪をまろ弥陀の
つれきれとあ三山重路うなり寸三
越路の園乃末れ系里河多いやと
ハきさうの塩川もまたくわく
は急ぐ程子越後坂中れさりの川上
はゆかみせの習是子口ねゆくね

馬

五ツ

ツリ

その横祈を以事ありきりしりあくい
^{ツリ} 空やつこひ飛る西方の降土ハ十万
 億ととも是も又深絶末途の勅語を
 是及^{トカ}あけろ乃山を以しりしり作
 る^{トカ}とて修行の機と兼及兼との
 とも^{ツキ}此はよるまじりうちをきりあく
 兼り^{ツキ}いりしりしりあく

四

あ〜不^{ツキ}後也言ま〜寺日あし作
 俄^{ツキ}〜暮てト又^{ツキ}板何と仕^{ツキ}人^{ツキ}寺
 まふく^{ツキ}極人^{ツキ}宿^{ツキ}系^{ツキ}らせ^{ツキ}な^{ツキ}ふ^{ツキ}是^{ツキ}
 ちあけ路の山とて人里遠寺あまり
 日乃言てし^{ツキ}も^{ツキ}つ^{ツキ}い^{ツキ}、^{ツキ}店^{ツキ}あ^{ツキ}く^{ツキ}一^{ツキ}板
 を^{ツキ}め^{ツキ}き^{ツキ}せ^{ツキ}終^{ツキ}り^{ツキ}と^{ツキ}、^{ツキ}何^{ツキ}く^{ツキ}終^{ツキ}り^{ツキ}わ
 り^{ツキ}た^{ツキ}日^{ツキ}の^{ツキ}くれ^{ツキ}前^{ツキ}後^{ツキ}を^{ツキ}思^{ツキ}〜^{ツキ}て^{ツキ}い

たゞく森羅ふむる少くは
宿まい路はる事下ぬお思ふ子細
あり山姥れ予の一か一いひくす
こ勢紡へし平原の里なる部乃思出
とら子海下一一ま鳥一一一世日一をくら
ば有一を一ま一り一き一て一作一へ一る一れ一は
も一う一り一勢一紡一ひ一ら一へ一 日一を一お一ひ一て

うらぬ事を飛く物成さく道と見
中されて山一一一を一れ一予一の一一一か一と一反
は前一の一里一を一登一り一や一あ一ま一は一ま一り一は一ら一み一
紡ふらしはれよま一一一寸一法一と一ち
ひやとま山姥とて隠るゝを母あへ
はま一一一ま一一一す一や一を一は一予一の一次一弟一と一わ
らん一子一ら一は一足一門一の一山一も一り一山一回一り

七
 却カ子コづズいイたタまマりリわワれレもモ又マ滅メのノ婆ハ
 をヲあアらラしシめメるルをヲすスるルわワきキろロふフ夕タ
 月ツキのノさサるル地チたタりリとトおオをヲ急ク
 深フカ山ヤマ色イロ乃ノくクをヲよヨ心ココロをヲきキ添ソてテ此コ
 山ヤマ姥ババのノ祀イハヒとトあアらラをヲおオもモうウらラいイ
 下シタのノ其ソノ侍シ我ガ寸サしシもモ頭カビりリ衣キれレ
 袖スリーブはハてテ後アトにニ舞マユをヲまマふフるルこコりリふフ

一とヒトとトれレちチまマ儘マりリまマきキまマやヤにニ失シ
 二ニとトあアくク 三ミ乃ノ事コトのノ不フ成セすス
 四シとトにニ滅メとトあアもモほホえエぬヌ鬼オニ女メのノをヲ
 五イ葉エフをヲたタらラしシとト 六ム月ツキもモもモ吹フ笛フエ
 七シのノぐグ々々とトあアらラるル谷ヤ河カ子コ平ヘまマあア
 八ハチはハくクまマるル曲マ多タれレ原ハラまマりリあアらラるル深フカ山ヤマ
 九ク郎ラウくクあアらラるルまマのノ寸サこコのノ深フカ谷ヤわワらラ

後アトにニ下シタ
 左ヒダリにニ下シタ
 右ミダリにニ下シタ
 女メ氣キササ心ココロ打ウちチ也ヤ

何物もこの深谷やまき林に骨を
ふく霊鬼位と前生乃業をうむ林
野子苑を供する天人のうむくも
幾生の善をよめふりや吾画不二
ちよとつうくミちふとつちこをこ
や^詞方筒目前の壇邊ぐしり魚づく
と^上し^下く^下い^下ち^下海^下家^下に^下たり^下山^下ま^下す^下や^下ま

海野

づりまのたぐり青巖の形をけ
つりまを氷まき氷まれの歌より
碧潭の父をうぬおせろ^{ツ上カ}たろり
や月を木あり山陰よりそのう後
ま^下ち^下た^下る^下は^下ま^下せ^下い^下ま^下山^下う^下を^下あ^下く
ま^下ち^下守^下り^下守^下り^下も^下ち^下や^下極^下子^下山^下を^下め
し^下ら^下め^下柴^下乃^下氣^下愛^下み^下も^下志^下海^下に^下る^下家

る——我子あまうま妙のたまふ
此上をうろたふ——あうり馬羽玉の
く——まうし——まうし頭出る姿をうろたふ人
ま——と——髪も及をとろまをい
たき——眼のまわはほれ——
シ上カレシ 叔面のまをさう——ぬまの——
うり——れ鬼の——いちを——こま——初

りてなる事を——何はた——
い——の——た——ら——の——あ——
ま——く——ら——ま——り——さ——り——お——ろ——り——ま——
ま——ま——を——あ——の——白——玉——の——ゆ——ろ——と——う——り——人——
ま——ま——も——我——才——の——上——は——成——ぬ——る——ま——は——浮——世——
ま——ま——の——や——く——ま——れ——夜——乃——一——時——
ま——ま——を——千——金——子——替————と——ら——ぬ——花——子——清——音——月——

歌見多祢のいななまはりに行逢人

の一曲れそのかともあつらふ

さやくくうさひちりませ 文は

上ハとも角もりふ子及りぬ山中子

一帯の山鳥羽とたれを 鼓ハ波

袖多白妙 雪と四らぬこのまれ乃

あよまのり のおあめ

うーいさの山姥く山回りまら
そくあき 支山と云ハちりいち
よまをこけやあま雲のけ子まの筆
海多若れ作むよん志やうて波濤
をたむむ方多より 一個をーき谷
のうゑ梢子舞舞名山のぞ舞舞
をうたふわとあり舞子いーうぬ谷

もうれとばるるを交う
殊に我恒山歌のきり山
海邊く谷深うて水遠
ハ海水きりく志く月
るをうけねる松魏
て同常樂れをわかれ
朽るほころむるを諫鼓
一甲二
一高

深うておとろもり
るをのきり山中
おむつりなくも呼子
きりく伐木下りて
了りて
吾提を頭り無明谷
多下地宿生を表き
一ツカケテ
上ツキ出ス

あゝ山姥ハ生前もあらず
有る一やう雲水をたたりて
らぬ山の奥もあらず
子ありすとて隔つれやれやをる色
假り自性を變化志て一合化生の
鬼女やるつて目前に來て邪正一
如とるる時ハ色形是をそのまゝに

佛はありし世はあり煩惱ありし業
提あり佛ありし宿生も宿生ありし
山姥もあり柳ハ緑花ハ多し井の
いろく板人間にありふ事ある時
ハ山賄の推路子通小苑の信やまを
かもしし肩を一月夜を山と出
里まで送る折も何里又ある時ハ織姫

乃いをまたいつれ客へ入て坂の
うらひをぬきつ紡績の宿よ身を運
人をたるとなりをりて賤れ目よ
見ぬ鬼とや人のりよ賢ん世を
を蟬の衣衣まゆりぬ袖よをく霜ハ
おき乃月子埋れいらすき人の
くまみゆ子拜万勢乃くぬつに勢

のきくらひもた山姥のりる終
やちよふりて世流よ勢よせ終へ
思ふ多る河も妄瓶の唯いら捨文何
事よより見引の山姥の山巴り寸
ねる若しは乃山回り
一樹の陰一河の流皆是地生れ縁を
しきりてやわらみを夕月乃浮世

をめぐりて一かゝる程を締結のみり
まゝに讃佛乘れ固き一何くは名
残れや眼中て如香山の 雲ハ梢
子吸しと待し 花を尋て山巴り
秋ハさやけの歌を為て 月乃るす
子と山めりり 冬ハさえむく時
の雲の 雪をさつてひくくまりりり

上落
兜をうくして輪廻をすれまぬ哀概
のや乃魔障の山姥とる終る鬼
女の身枯るるわくは屍子あけり
谷ノ一掃蕩て今まで寂子あけりと
息く一山又かまに山りり山又
やまノ一山巴りて行旅も志す
まゝりりり

子集油米路

